

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森 1Fひだまりユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=329](http://x.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=329)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成26年11月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで静かな環境の中、利用者様がのびのびとして気兼ねなく話が出来、職員とゆっくりとくつろいだ生活をしてられます。今までやってこられた「家事仕事」として、食事の献立も利用者様と一緒に考えています。「おいしかった。」と喜ばれる機会も増えています。出来る事を大切にしながら楽しんで頂いています。  
地域の方々の協力を得て防災にも力を入れています。消防署より来て頂いて、救急蘇生法やAEDの使い方等、一緒に訓練を行いました。職員は理念をいつも意識しながら、尊厳を大切にしたいケアに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の笑顔や気持ち良さそうな表情を大切に、ゆったりと過ごしてもらえ様に、日々の支援を振り返り、勉強会や話し合いを重ねながら利用者の思いに沿った支援に努めている。両ユニット共に理念に基づいて具体的な目標を掲げて利用者に接している。日頃から利用者も職員も地域の人との交流を大切にして取り組み、事業所の情報を発信し、地域の情報を得ながら協力し合える関係を築き利用者の生活を支えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意識付けとして、毎日申し送り時に理念の復唱をし、頭に入れ実践につなげている。	各ユニットで理念をわかりやすい言葉で月間目標にして意識づけをしながら取り組み、日々の支援に繋げている。その人らしく暮らせる様に、話し合い共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の方のボランティアに来て頂きながら交流を続けている。	地域の方が掃除やお話で訪問したり、利用者も行事に出かけるなど交流している。職員も野球大会に参加し地域との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高校生の職場体験やボランティアの方々との交流等を通して、認知症の理解や支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスや取り組み状況の評価や報告を行い、話し合いの中で意見や提案を見直しの機会とし活かしている。	相談を受けたり意見をもらい支援に活かしている。避難訓練時、利用人数や状況がわかるといい、という意見をもらい、ホワイトボードを準備し改善を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等により、色々と意見を頂いたり、情報を得たり、状況を伝えたりしている。	日頃から連絡を取り合い、相談したり協力関係が築かれている。担当者から認知症の人の状況や意見を求められることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、勉強会を行い、理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。	研修会に参加し事業所の勉強会で学び合い共有している。何気なく使っている言葉にも気になることがあった時には話し合い、意識して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会を行い、学ぶ機会を持ち虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員に必要な知識として、資料を基に勉強会をしている。成年後見制度を利用している方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に十分な説明時間を取り、不安な事等を伺い、納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族様へ電話をかけた際、現状を報告し、意見を頂いたり見直しをし、反映させている。	面会時に話をしたり意見用紙を活用して意見を聞く機会を設けている。家族から、寝る時はパジャマがいい、との意見をもらい支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等の議事録は目を通してもらうようにし、代表者を交えての話し合いの機会も設けている。	管理者は日頃から意見を聴き運営に反映させている。2Fユニットでも食事を作りたいという職員の意見で台所を整備し、利用者の楽しみが広がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休みの希望を聞き、出来るだけ希望に沿うように考慮し、やりがいのある職場環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の機会を確保し、また内部研修の機会も設けている。その都度話し合い等により、注意を行いトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等により、色々な話を聞く機会があり、内部での勉強会に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を確保するために、直接聞いたりコミュニケーションを取りながら、表情やしぐさから不安や困り事を汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いを聞き、本人の思いや状態に沿ったサービスが出来るよう話し合いをし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報を収集し、アセスメントし、必要としている支援を見極めサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しい時には一緒に笑い、自分の家族のように思い、少しでもうれしい時間が持てるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来所時は利用者様の様子を伝え、家族様からの話を伺い、話し合える場を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に散髪に行ったり、地域行事への参加で、地域の人に接する機会を持ち、関係が途切れないように支援している。	家族の協力で週に2回教会に通ったり、外泊の支援をしている。馴染みの散髪店や地域行事に出かけるなどそれまでの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの状態を理解し、声かけをしながらより良い関係を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や問い合わせ、相談出来る関係が保てるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人になりたいときの静かな場所の提供や、利用者様の思いや希望を大切にしている。	みんなと一緒にいい人、一人の時間を持ちたい人など本人の思いを大切にした支援に努めている。言葉で伝えられない人には表情やスキンシップで対応し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や情報を聞きながら、本人の会話や行動からも把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子が分かるように変化等があった時には色ラインを入れて、一目で分かるように状況、状態を詳しく記録にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで利用者様の課題等を話し合い、それぞれの意見からニーズに即した介護計画になるように努めている。	利用者、家族の意見を聴き、職員間で話し合い介護計画を作成している。モニタリング用紙の下に備考欄を設け関わりの中での気づきを拾い、情報を共有して次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの一日の様子を分かりやすいように記録し、情報共有に努め、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の意向に配慮しながら、外出や病院受診の付き添い等、必要な支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問散髪やボランティア等、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう、地域資源の活用を意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とはいつも相談が可能で、連携が出来ており、利用者家族の意向を聞き、納得の得られる医療を受けられるようにしている。	連携医の定期往診があり、夜間や緊急時も24時間連携体制がとられている。利用者の希望でかかりつけ医の受診もあり、家族の都合が見つからない時には通院支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が不在のため24時間医療機関と連絡が可能で、相談が出来、受診や往診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携が出来ており、入院時の情報の交換や相談を行い、かかりつけ医での入院が難しい場合は、ほかの病院への紹介も行って頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適切な時期に家族、かかりつけ医、事業所で話し合いをし、最期までその人らしく温もりの中で過ごせるように支援している。	看取りの考え方として、食事が摂れなくなり医療行為が必要になれば、医師の判断で話し合いを行い、情報を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得てAEDの使用法、救急蘇生法、応急手当等の訓練を行い、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間は職員が少ないため、地域の方の協力が必須で、一緒に訓練を行い、安全に避難出来るようにしている。地震、水害等対応についてさらに検討中である。	地域の方の避難訓練への参加や協力体制がある。さらに近隣への連絡の仕方の訓練も計画している。非常時の持ち出し用品を倉庫に置き、コンロや備蓄品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「心地よい言葉」を目標にあげ、一人ひとりの尊厳を大切にしながら、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	人生の先輩として敬う姿勢で接し、言葉づかいについても話し合い対応している。プライバシーを考え、往診時、職員休憩室を診察室にして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけやコミュニケーションを通し、自己決定出来るよう、可能な限り働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思い、ペースに合わせてながら、出来る限り希望に沿う支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行ったり、お化粧をきちんとされる方もおられる。一人ひとりに合ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食は一緒に作ったりしている。出来るだけ今までしてこられた事が出来るよう、皮むきや食器拭きをして頂いている。職員と一緒に食事も行っている。	できる人は皮むきやおやつ作りを一緒に行い、楽しめる様工夫している。日頃の会話の中で好みの物を知り献立に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、水分の入りにくい方は工夫をしながら摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時には記録に残し、排泄パターンを把握し、声かけも行っている。紙パンツやパットを使用しておられる方には、時間をみながら声かけし、トイレでの排泄にむけての支援に努めている。	利用者に合わせて声かけしたり、介助者や時間を変えたりして支援している。車イスの人も二人で介助しトイレで排泄できる様にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせて水分の摂りにくい方にはゼリーやジュースを飲んでもらったり、身体を動かして頂くよう散歩や体操をしたり、腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が決めて入って頂いているのが現状で、毎日でも入りたい方もおられるが、その支援が出来ていない。一人ひとりが楽しめる、気持ち良かったと喜んでもらえるよう努めている。	週に2～3回、希望があれば回数を増やしたり入浴時間を長くし状況に合わせて対応している。ゆず風呂や歌を歌うなど、ゆったりと楽しめる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状態に合わせて安心して休息出来るようにしている。ホールで横になれるようベッドも置いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細についての把握は不十分だが、情報はいつでも見る事が出来る。薬の変更があった時は状態観察を申し合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話や関わりの中から一人ひとりに合わせた役割や楽しみを提供出来るよう努力している。ドライブや買い物に誘ったり、おいしい物を食べたりして気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設周辺の外気浴は行っている。町郡内のドライブ、遠出して海や三瓶山を見に行ったりしている。近くへの散歩の時には、地域の方より声をかけて頂いている。	日常的に外気に触れる機会を持ち、天気の良い日には外気浴や畑いじりで外に出ている。花見やドライブを計画し季節を感じられる様支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	わずかなお金を所持している方はおられるが、ほとんど事業所で管理している。必要に応じて支援しているが、お財布を持って出かける事は少なくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話をしたり、手紙を書かれたりする事はないが、したいという思いは大切にしている。必要時にはこちらが電話したり、家族様からかかった時に代わり話をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに草花を飾り、季節を感じて頂いたり、温度や湿度にも気を付け、快適に過ごせるよう努めている。	花や折り紙で季節の飾り付けをしたり、利用者の写真が飾られている。一人で寂しい、という人にはソファで寛げる様にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係や身体状態を見ながら、適した環境になるように椅子やソファの場所等にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には家族の写真、花、カレンダー、また畳に布団の方や、冬にはこたつを出しておられる方もいる。	自宅からタンスや馴染みの物を持ち込み、家族の写真が飾られている。畳が敷かれ、本人が安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が安全に送られるように、利用者様の活動の様子をみながら配慮している。		